

2007年9月23日 ロゲイニングチャレンジ菅平大会 (長野県上田市)

群馬県にまでフィールドを広げた菅平ロゲイン。12時間の部と3時間の部でいろんなアウトドア競技の人が競い合う。

ロゲインの帝王・柳下

菅平ロゲイン12時間の部で総合優勝したのは柳下大と高橋善徳が組んだ「Team 阿闍梨」。

昨年の菅平ロゲインでは不調に終わった柳下だったが、昨年はロゲイン世界選手権にも出場し、今年では日本でのロゲイン最高峰・菅平で見事復活をさせた。

柳下大・高橋善徳ともに日本のトップオリエンテーリングシーンに名前を連ねる者たちである。90分で勝負の付くオリエンテーリングと12時間ものあいだ動き続けるロゲインでは違う要素が求められるはずだ。

高橋善徳はいままでの菅平ロゲイン3時間の部で連覇を続けていた。12時間の部に参加しなかったのは時期的な理由だった。今まで菅平ロゲインは6月に開催されていた。オリエンテーリングの世界選手権を8月に控え長時間系の競技は控えていたようだ。今年では菅平ロゲインの開催時期が9月になり12時間の部への参加が可能となった。

3時間は足立が制する

いっぽう3時間の部を制したのは足立辰彦。マウンテンバイクやクロスカントリースキー、オリエンテーリングとアウトドアで総合的に活躍している選手だ。また女子優勝の林は総合でも8位という成績を残した。



夕暮れを迎えた菅平高原にフィニッシュする Team 阿闍梨の高橋善徳と柳下大

12時間の部 男女混合

- 1 銀シャリ 1543点
- 2 ワイルドライフ 1459点
- 3 Team Ski-O 1299点

12時間の部 男子

- 1 Team 阿闍梨 2018点
- 2 東工大美術部 1654点
- 3 MTBO 普及委員会 1620点

3時間の部 男子

- 1 足立辰彦 921点

- 2 上條真哉 897点
- 3 鈴木陽介 873点

3時間の部 女子

- 1 林 佳苗 742点
- 2 Ellen Boomer 653点
- 3 芝田登紀子 639点

3時間の部 男子 50歳以上

- 1 平雅夫 793点

- 2 大井成介 730点
- 3 羽石清二 728点

3時間の部、女子 50歳以上

- 1 堀本睦 446点

3時間の部、男子 18歳未満

- 1 木村友佳 474点

Team 阿闍梨によるレース解説

(レース反省会より)

まず地図を見て、最高得点ポイントを探した。いずれも最北と最南の位置に設定されている。この得点を両方獲得できるルートを選択した。

会場へ戻る時間を考慮してコース途中にある鳥居峠の通過時刻を決めておいた。会場近くにあるダボスの丘のコントロールは最後の時間調整のために残しておいた。

レース期間中涼しく、消耗が少なかった。補給も少なく、歩きながら補給した。スタート時点持っていたのはコーラ1L、水1L。食料を1時間30分ごとに1回補給。8回補給した。

基本はペースを上げすぎないこと。登りはほとんど歩き。下りは走る。心拍数を低く一定に保つようなレース運びだった。

(柳下氏と高橋氏の話から抜粋)



12時間のフィナーレ。自然とガッツポーズが現れる。

ロゲインの魅力

ロゲインとは、広大なフィールドを使用したスコアオリエンテーリングである。

通常のスコアオリエンテーリングでは制限時間が60分や90分であるのに対して、今回菅平高原で開催されたロゲインは制限12時間。日の出の午前6時にスタートし、フィニッシュ制限時間は夕闇迫る午後6時。

今回のフィールドは上信越国定公園の菅平高原をはるかに越え、長野県須坂市から群馬県嬭恋村や湯の丸高原に至る広大なフィールドである。コントロールは標高2200mを超える山頂や巨大な滝の近く、草原の広がる高原、どこまでも続くレタス畑、人里などさまざま。トップチームの走行距離は80kmにもおよぶ。

この12時間の部には、オリエンテーリング関係者だけでなく、アドベンチャーレーサー、トレイルランナー、登山家などアウトドア系のあらゆる層が参加するところが面白い。

12時間の部は必ずチームでの参加が義務付けられており、チームワークも試される。

12時間の部はトレイルラン

今回のコースプランナーは12時間の部は許田。かつてオリエンテーリング選手だった許田がトレイルランに転向して久しい。そんな彼が設定したコースの特徴は天空のトレイルランコースだった。標高2000mを超える山岳を3つ以上含む山岳コース。晴れば素晴らしい風景が展開するコースだ。

3時間の部のコースプランナーは私・木村が務めさせていただいた。初心者から上級者まで気持ちよく菅平高原を走ってもらうことがコンセプト。むやみに標高を上げず、高低差の少ないコースを林道・小径を中心に駆け抜けていただこうというものだ。そのぶんコントロールを置いた範囲は広く、その配点も極端な高得点・低得点のものはない。ランの巡航速度と戦略が問われるコース設定だ。



12時間の完走に体が自然と踊り出す。

初心者にも広い間口

今回3時間の部に多くの初心者の参加があった。

会社の同期14名の若い男女グループ。みんなでスポーツ宿舎にでかけようというノリだ。メンバーの一人がランナーだということで「走る・歩く気軽なスポーツ」ということでロゲイン3時間の部にエントリーしたようだ。

ロゲイン自体が初めてということで、前日に標高1700mの菅平牧場で行われたオリエンテーリング練習会にも足を運んでくれた。

一見してとても山に入ると思えない服装で練習会会場に現れたときは、運営している私のほうが驚いてしまった。

初心者いきなり菅平牧場のトレインは難しいので、登山道のふもとをぐるっと回ってくる初心者用コースに参加していただいた。

地図を見て登山道をめぐる経験は彼らにとって新鮮で、1時間後会場に戻ってきた彼らは口々に「面白い」を連発していた。

ロゲインのコントロール位置はオリエンテーリングより易しく、コントロールの難易度からすると殆どがNクラスである。しかし限られた時間と体力の中でコントロールをどのように繋いでゆくか、何をあきらめ、何にこだわるか、補給をどのように行うか、などその過程に体力と戦略性がある。

戦略を立てるにも地図を読みきり、距離・登りを勘案して最適な作戦を立てる必要があるのだ。

これこそが上級者から初心者までが同じ地図、同じコースで戦える、楽しめるというロゲインやスコアオリエンテーリングの懐の深さなのだ。

3時間の部で使用したコントロール位置はその殆どがみつかるのが簡単な場所ばかりだったが、さすがに一つだけピリリと辛いスパイスも用意した。それは直進しないととどろき着けない「難易度A」のコントロールである。

この初心者グループもこのコントロールに挑戦した。その難しさと発見したときの喜びは別格だったようで、あとあと仲間うちでも話題に上ったようだ。こうして、彼らはロゲインやナビゲーションスポーツの楽しさを発見していった。

あとで聞くと、このグループのほぼ全員が普段はコンピューター画面に向かう仕事を行っているらしい。そんな動かない毎日を通り越している彼らにとって、菅平高原のフィールドにポーンと放り出される開放感ほどに快感だったのだろうか。

ただ放りだされるだけではない。手には精密な地図にスコア得点という情報を持っている。野生と知性を駆使する感覚は、おそらく今まで味わったことのない経験だったのだ。

オリエンテーリング用地図の情報量多さと正確さに感激したと聞き、あらためてO-mapの持つ素晴らしさを再認識させられた。

このようにロゲインは多種多様な参加者が集まる、刺激の多い競技会なのだ。

(木村佳司)